

## 鮎の瀬ばり網漁と種付け作業見学報告（2013.11/6.9）

秋，落ち鮎の季節になると長良川では上流から下流までのあちこちで，川を横切って仕掛けられる瀬ばり網が見かけられます。今回11月6日に岐阜市の西部，鏡島大橋のすぐ下流（河口から47km辺り）で行なわれている瀬ばり網漁と今年最後の鮎の種付け作業を，9日には河口堰への運搬作業を見学することができました。



瀬ばり網漁

瀬張り網漁は比較的流れの緩やかで浅い川面を横切って支柱を立てロープを張り，川床に白いシートを張りまです。下ってきた鮎が水面を叩くロープの音と白いシートにびっくりして止まったところに手投げ網をうち獲るといふ伝統的な漁法です。長良川には11カ所あり，ここ鏡島では9月の第1日曜日から11月の第3日曜日までの約2ヶ月間行なわれます。



流されないよう川に支柱をきちんと立て，仕掛けをつくるのは根気と年期がいる作業です。今年も台風などの出水で何度か作り直したそうです。瀬ばりで溜まった魚の様子を見てタイミングよく弧を描くように網をうちます。今年はここでは久しぶりの豊漁で作業をする人達も活気に満ちていました。例年なら採卵のための鮎を獲るのも苦労するのに今年は早く予定の種付けを終えることができたといいます。理由をたずねたところ，台風や雨量などの気象条件，昨年のような病気が少なかったことなど好条件が重なったためではないかとのこと。釣りの時期に何度も台風が来て鮎が釣られず，気温が高かったので上流にかなり残っていたのかもしれないそうです。例年この作業には17名が交代で従事。6日は山中さんをはじめ長良川漁協の関係者5名が作業をしていました。80代，70代，60代が中心で後継者がいなくなればこの漁や種付けも続けられません。一昨年漁協に入った若者が期待を一身にならなくなって頑張っていました。「もっと若い人がこの仕事につけるようにできればいいんだけど」という言葉が印象的でした。



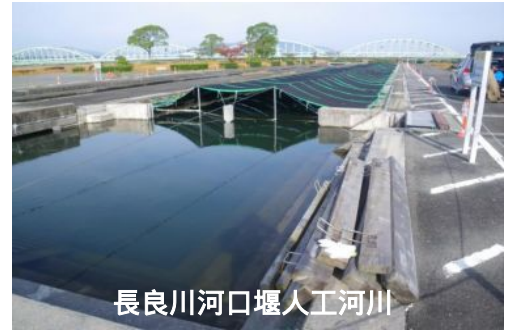
鮎の種付け場

種付け作業は獲った鮎を手早く網からはずし，メスの卵をしぼりオスの精子をかけ受精させ，棕櫚（しゅろ）につけ川に沈めた網を張った箱にぶら下げます。3日程で受精卵に眼がでます（ガイワレ・眼割れ）。棕櫚一本におよそ3万粒。今年は5回の作業で3400本程，約1億粒になるそうです。孵化率は80%ほど，箱に穴があいているとせっかくの卵がエビなどが入り食べられてしまったりすることもあり神籠を使います。



この受精卵のついた棕櫚を川からあげ車で一時間ほどの河口堰まで運び，堰の右岸の人口河川に沈めます。水温15度で約2週間で（積算温度が2000程になると）孵化し海へ下っていきます。伊勢湾で冬をすごした稚魚は来年春，木曾三川を遡上してくるでしょう。

人工的な種付け作業は河口堰建設前から行なわれていましたが、当時は孵化すれば仔魚は流れに乗って自然に海に下ることができました。1995年に堰が閉鎖され天然遡上の鮎が激減。山中さんはせめて義務放流分だけでもとはじめたものの、最初は種付けた卵が腐ってしまうなど苦労を重ねたといいます。2005年からは流域の7漁協の漁対協（漁業対策協議会）の事業として実施し、2005年には500万粒、2008年には3100万粒、2010年には8900万粒と種付けの実績は増加しています。費用は岐阜県や岐阜市の補助や漁対協の支出で賄っているとのこと。養殖では病気に弱く、奇形も多いことから、最近では天竜川など他の河川でもこの種付け作業を取り入れたいと見学を訪れる人達が増えているそうです。



かつて、長良川では天然鮎と放流鮎の割合は8：2くらいだったものが、今では逆転、放流が8割ほどになっているそうです。養殖、天然を問わず、長良川で孵化した仔魚は河口堰がなければ3～5日程で降下できたところ、今ではせき止められ下流域の流れが遅くなり1～2週間くらい日数がかかるために途中で死んでしまうものが多いと考えられています。鮎をはじめさまざまな魚たちが自然に海に下り遡上できる本来の長良川に戻すためにも、開門調査をぜひとも実現してほしいものです。



（文責：田中万寿 写真：武藤仁，堀敏弘）

業務名：	平成25年度魚類放流業務委託
年月日：	平成25年1月9日
場所：	<input checked="" type="radio"/> 菅生（鏡島大橋右岸） <input checked="" type="radio"/> 長良川河口堰人工河川
作業内容：	<input checked="" type="checkbox"/> 卵・精子採取 <input checked="" type="checkbox"/> 人工授精、受精卵付着 <input checked="" type="checkbox"/> 魚巢養生 <input type="checkbox"/> 魚巢配備
魚巢数量：	本
長良川漁業協同組合	



山中さんへのインタビュー記事「長良川の今・昔 長良川漁業協同組合・副組合長 山中茂さんに聴く」は「市民学習会ニュース15号」を参照してください。